

I 学校の概要

外国語教育推進モデル校事業 丸亀市立飯山中学校

◆学校の特色

本校では、令和6年度から丸亀市内の中学校に先がけてオンライン英会話を始めた。2～3人ずつのグループで英会話練習を行う。内容は、食事やスポーツなどの身近な題材でのフリートークから始まり、その時点で学習している文法事項を使った音読練習や口頭での英作文練習を行った。今年度も各学年で3回ずつ実施する予定である。また、昨年度も外国語教育推進モデル校事業を受け、海外の同年代の生徒を相手に国際交流オンライン英会話を年2回実施した。

オンラインでの英会話の経験を重ねるごとに、即興でやり取りすることへの心理的な負担は少なくなり、真剣な表情で画面を注視し、英会話講師や海外の生徒たちの話を傾聴し、質問や説明に反応しようと努めていた。聞き取れる内容が増え、言いたいことが相手に伝わる充実感を得ている一方、会話を続けるにはもっと英語力をつける必要があると学習意欲が高まっている。相手が同世代の学生になると、緊張感が薄れ親近感が沸き、いつも以上に主体的に準備したりやり取りしたりする生徒の姿が見られた。

II 研究主題等

「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動の工夫

～表現例のマニュアル化と国際交流までのカリキュラム化を通して～

◆研究主題設定の理由

一昨年度から実施しているオンライン英会話では、テキストを見ながら音読練習をしたり、新文型の口頭練習を行ったりするうえ、わからない時には英会話講師が簡単な英語で繰り返し話してくれるため、英語の苦手な生徒も比較的安心して活動に参加できている。一方で、フリートークの時間が短く、もっと自分から質問したりたくさん話題で長くおしゃべりしたりしたいと感じている生徒も多数いる。

昨年度実施した、国際交流オンライン英会話では、同年代の生徒が相手のため、互いに聞き取ったり理解したりできず無言の時間が流れるグループも多々見られた。多くの生徒たちが英語を聞き取る力のなさを痛感し、さらには、英語でのやり取りにはリアクションやリスポンスのバリエーションを増やしたり、ノンバーバルコミュニケーション力を高めたりする必要があることを実感した。

質問に英語で答えたりリアクションしたりすることはできるようになっているが、相手意識（相手に伝わるように工夫する気持ち）をもって交流できた生徒は少なかった。相手に伝えたり興味をもってもらったりするために、日々の授業でSmall TalkやAIとのやり取り練習を積み重ね、会話のある程度のパターンを掴む必要があると感じた。リスポンスに困ったときにすぐ確認できる表現例を準備し、より深まりのあるやり取りを目標としたい。また国際交流に向けて、生徒が自信をもって相手とやり取りできるように、事前活動や帯活動を計画的に進めていきたい。

◆研究内容及び方法

- 1 「やり取り」・「即興性」を意識したSmall Talkの工夫と継続（表現例のマニュアル化）
- 2 ALT2人の積極的な活用
- 3 生徒が自分の成長を実感できる実践の場（姉妹都市との交流など）
- 4 1年間の見通しをもったカリキュラム

Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

- 1 英検 IBA の結果分析（経年変化の観察）
- 2 パフォーマンステストやスピーキングテストの結果分析
「リアクションの有無や種類」「レスポンスの有無や種類」
- 3 授業前後のアンケートや振り返りシートの内容分析
「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思うか」
「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思うか」

Ⅳ 研究成果の普及方法

- 1 国際交流2回を、すべての学級で授業公開し、授業後に討議の時間を設ける。
- 2 表現例のマニュアル化や1年間の授業カリキュラムを共有する。